

おとな・り (re)  
調査隊が行く！

おとな・り (re) スタッフが世田谷の気になるコト・モノ・ヒトを  
アレコレ調べてレポートします。

# 農作業体験塾で「せたがやそだち」 上祖師谷「はないち農園」を訪ねる

上祖師谷には十数軒の都市農家があります。その一軒がはないち農園です。いつもは園主の吉岡誠市さん夫婦で農作業をしています。ところが、毎水曜日の午前中には、見知らぬ人が4～5人加わります。「さて、この人たちは何者？」

取材・文／小家征夫



吉岡さん（中央）と農作業体験塾の塾生のみなさん

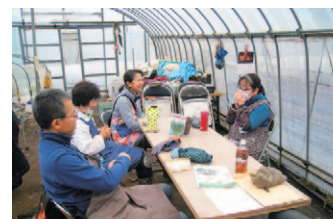
〈11月〉畑を耕し、土をならし、小さなチンゲン菜の種を蒔きます



〈12月〉育ち始めたチンゲン菜の間引きしました

和気あいあいに作業は進んでいきます。もちろん農作業は楽しいことばかりではありません。農作業体験塾はそれも含めて体験します。今日蒔いた種は、2月末に収穫するのだそうです。

「私たち農家は人手に頼ることが多く、農作業体験塾のおかげで助かることも多い」と、吉岡さん。これからも、生産者と区民とのよい関係が、世田谷の都市農業を元気にしていくのだと思います。それはまた、地域の環境保全という点でも欠かせない気がするのです。



作業の後のひとときも和気あいあい

実は、この人たちは、区の都市農業課が主催する「農作業体験塾」の塾生さんです。さっそく、都市農業課の担当者に話を伺いました。「生産者と区民が交流し、種蒔きから、収穫、出荷まで一連の農作業を体験することで、世田谷の農業について理解を深めていただくことが目的」とのことです。

では、どんな人が参加しているのだろう。もともと土いじりが好きで子どもが学校へ行っている時間を利用して参加した女性、定年退職後、趣味で参加した男性、動機はさまざまですが、農業とは関係のない人ばかり。下馬から自転車で約50分かけてやってくる高橋さんは、農作業体験塾が高じて区民

農園に申し込んだそうです。農作業の魅力にはまったようですね。

## 農作業体験塾がつなぐ 農家と区民と地域

取材に訪れた日は、チンゲン菜の間引きを行っていました。11月に蒔いた種が大きく育っています。新鮮な緑がいかにもおいしそう。

「間引きした菜は持って帰っていいよ」と、吉岡さんの声に、みなさん大張り切り。間引きが終わると小松菜の種蒔きです。畑を耕し、土をならし、小さな種を15cmほどの穴に7、8粒ずつ蒔いていきます。これにもコツがあって、吉岡さんがそのコツを塾生に伝授。「ほら、手をひねって落とす感覚で」。



### 「農作業体験塾」に関する問い合わせ

産業政策部都市農業課  
☎ 3411-6658

※平成29年度春（4月～6月）の募集については、3月1日付の区報、世田谷区ホームページへ（予定）